

琉球大学学術リポジトリ

産業と保護の両立と協力をめざして：
スマトラトラのケース

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム 公開日: 2007-10-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: マドックス, トム, Maddox, Tom メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2194

産業と保護の両立と協力をめざして：スマトラトラのケース

トム・マドックス (Jambi Tiger Project, Zoological Society of London, UK)

世界で最もよく知られているネコ科の多くの保護状態についてしきりに警告がなされている。そのため、多くの人々はネコ科は特に脆弱で、弱い分類群であり、最も人里離れた自然度の高い地域内に保護区を必要とすると結論づけている。しかし、多くの場合これは事実ではない。最も絶滅の危機に瀕している種の中には多様な生息環境に対して、驚くべき許容性や優れた多産能力を持っている場合がある。これらの特徴は、彼らが生存を確保するには十分であるとは思えない。しかし、こういったネコの本来の生存能力を理解することによって、従来とは異なる保護策へのアプローチへの扉を開くことができるであろう。

東南アジアの多くの地域では、伐採場、農耕地、鉱物採石場といった産業景観が優占している。いまだに過去の経済危機に苦しんでいる地域で、多くの人にとってこれらの産業はその未来の象徴である。また一方では、これら産業は、保護の将来に対する最も大きな脅威であり潜在的な鍵ともなる。しかし、成功と失敗の間は紙一重である。

保護と商業が両立すべきか、両立しうるかという議論は現在も白熱している。本講演では、世界で最も絶滅の危機に瀕している種の一つであるスマトラトラと、インドネシアにおけるトラとその生息環境に対して一番の脅威であるいくつかの産業との両立の可能性について模索する。IMC(国際哺乳類学会)本大会ではアブラヤシ農園やその周りの生物多様性についてより詳細にみているが、本講演では、トラを焦点に当てて、産業地域についてより広い議論を展開する。

ここでは、特に4つの疑問に注目したい。

1. 産業地域におけるトラの保護はどのくらい必要なのか？
2. このような地域でトラはいつ、どのように生き残れるのか？
3. 産業と保護側が協力する上で、何をすることが必要なのか？
4. それらの答えは他のネコ科やそれ以外の種にとってどんな意味を持っているのか？

本講演はジャンビ・タイガー・プロジェクト, Zoological Society of London, インドネシア政府およびスマトラ商業パーム油農園の共同による研究・保護事業による知見に基づくものである。